



1. 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 公立病院としての役割の発揮と責務の遂行

(1) 救急医療への対応・・・**4**

- ・心臓血管センター、周産母子センター、こどもセンターでは、24 時間 365 日の救急受入体制を維持するとともに、法改正によって病院内での業務が可能となった救急救命士を活用し、救急外来のパフォーマンス向上に務めた。
- ・救急車受入件数は過去最高の件数となったが、圏域内受入要請件数が対前年度約 500 件、対2019年度約 2,100 件増加し不応率も高くなった。

(2) 災害時における機能の強化・・・**4**

- ・9 月には地域災害拠点病院の指定および、災害派遣医療チーム (DMAT) を発足し、初の派遣となった能登半島地震に対しては、DMAT のほか、災害支援ナース、JMAT を含む計 9 名を派遣し、被災地支援を行った。

(3) 感染症対策の強化・・・**4**

- ・新型コロナウイルス感染症の 5 類への移行に伴い、医療提供体制が段階的に変化する中、県の要請に最大限対応し、最大 36 床の入院受入病床を確保し、小児や妊婦、透析患者など他の医療機関で対応が困難な患者の受入を行った。また、3 月に完成した増築棟エリアには、将来の新興感染症の発生に対応可能なエリア陰圧となる 10 床を整備した。

(4) 地域の中核医療機関としての役割の発揮・・・**5**

- ・地域の医療・介護者向け研修の実施や、地域連携セミナーの開催など、地域医療機関との連携体制を強化するとともに、今後爆発的な増加が見込まれる心不全患者を地域全体で診る体制を整備するため、心不全ネットワークを立ち上げ、地域の中核病院としての役割を果たした。

2 高度・専門医療の提供

(1) がん医療の充実・・・**3**

- ・がん集学的治療センターが中心となり、国指定の地域がん診療連携拠点病院として、高度かつ低侵襲な専門治療や患者ケアを推進したほか、地域医療機関と連携したがん治療のセミナーの開催など地域を含めた教育面も精力的に活動を行った。
- ・終末期がん患者の意向やニーズを背景に、緩和ケアセンターの機能を強化し、増改築に合わせ、緩和ケア病棟の開設・緩和ケア科開設に向けた準備を進めた。
- ・手術支援ロボット (ダヴィンチ) では、新たに胃切除の適用を開始した。

(2) 循環器疾患にかかる医療の充実・・・**4**

- ・24 時間 365 日体制で急性期循環器症例の受入や、脳卒中の救急医療体制の確立へ向けた取り組み、低侵襲治療の拡大、循環器領域への緩和ケアの導入など地域的心臓血管センターとしての役割を果たした。
- ・心不全患者を地域全体で診ていく体制の一步として、心不全ホットラインを開設し、地域の医療機関からの相談がスムーズに行える体制を整備した。

(3) 消化器疾患にかかる医療の充実・・・**4**

- ・総合的な診療体制により、出血を伴う消化管急性疾患や、胆管炎、胆道閉塞などの急性疾患に対する緊急内視鏡治療に対応し、地域の救急医療をカバーしている。
- ・直腸がんに対する経肛門的直腸間膜切除術 (TaTME) を軌道に乗せ、従来の腹腔鏡下手術では対応が困難な症例においても低侵襲の治療が可能となった。

(4) 周産期医療の充実・・・**4**

- ・地域周産期母子医療センターとして地域の三次救急の役割を担い、24 時間 365 日ハイリスク妊産婦をはじめ緊急性の高い母体、新生児救急症例の受入を行った。
- ・日本医学会出生前検査認証制度等運営委員会の認定を受け、出生前診断 (NIPT) を開始した。

(5) 小児医療の充実・・・**4**

- ・小児地域医療センターとして、24 時間 365 日の救急受入体制を堅持した。
- ・低体温療法や一酸化窒素吸入療法、気道狭窄に対するファイバー検査など高度な治療や検査を推進した。特に気道評価は圏域を超えた広範囲からの患者に対応し、増加傾向にある。

(6) センター診療機能の更なる充実・・・**3**

- ・2023 年 1 月に設置した呼吸器センターにおいて、情報発信や専門職員の配置などセンター機能の充実を図った。

(7) 総合診療体制とチーム医療の充実・・・**4**

- ・前年度限定的に開始した、周術期栄養管理について、一般病棟すべてに対象を拡大し、術後経過を向上させ、早期退院や退院後の QOL 向上に係る体制を強化した。(総合診療体制の強化)
- ・地域における高度・急性期医療の提供体制が評価され、急性期充実体制加算の算定が可能となった。また、増築棟が完成し、手術室 2 室を増室し、うち 1 室はハイブリット手術室を整備し、脳血管治療をはじめ循環器領域の手術の拡充を図れた。(高度・専門医療の提供)
- ・看護外来は、12 の看護外来を運用し、多職種と連携しながら在宅療養への支援を行った。
- ・臨床検査室が主体となり、病院全体で業務手順の見直しや改善活動を行い、臨床検査部門における国際認証である ISO15189 の認定を取得した。(チーム医療の推進)

(8) 高度・専門医療を提供する人材の確保と育成・・・**4**

- ・幅広い診療科目を有する急性期総合病院として、様々な症例の経験や、専門的なトレーニング機器を用いたシミュレーション、離島を含めた地域医療研修など、様々な研修プログラムを用意し、学べる病院としての機能を発揮した。
- ・職員の高度な技術習得の意思を支援するため、職員を大学院へ派遣する仕組みを推進した。
- ・特定行為認定研修施設として5区分8行為の研修から始まり、2023 年 9 月より新たに 5 行為の研修を開始した。

3 安全で信頼される医療の提供

(1) 医療安全管理及び感染対策の徹底・・・**4**

- ・システムを試験的に導入し、患者の動き出し予測や排尿誘導等に活用し、転倒・転落の発生抑制の検証を開始した。
- ・病理細胞診、組織診、内視鏡レポートに対するパニックアラート運用に加えて、放射線、内視鏡、一般検体検査、心電図、超音波等、多岐に渡る部門検査の未読結果・レポートを通知する既読管理システムを新たに導入し、見落としや有害事案の防止を図った。

(2) 患者とともに進める医療の推進とサービスの充実・・・**4**

- ・入院時重症患者対応メディエーターの配置や、社会保険労務士による療養・就労両立支援など、患者に寄り添い、患者の意思決定を支援する体制を維持した。

2. 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 自律性・機動性・透明性の高い組織運営

(1) 効率的・効果的な組織運営・・・**4**

- ・部門別の稼働状況や重要な情報を共有する運営協議会の月次開催を継続したほか、稼働状況など各種経営指標を日計で表示し、すべての職員が閲覧可能な状態で公開することで、職員の経営参画意識を醸成している。
- ・電子決裁システムやペーパーレス会議システムを導入し、事務の効率化を図った。

(2) コンプライアンスの徹底・・・**3**

- ・パワハラに関するアンケートの実施による実態把握や、標的型メールに対する訓練の実施など様々な情報セキュリティ対策を実施するなど、コンプライアンスの徹底を図った。

2 働きやすく、やりがいのある職場づくり

(1) やりがいづくり、モチベーションアップへの取組の充実・・・**4**

- ・システミックコーチングにより、風通しの良い組織風土が定着しつつある。また、半期ごとの所属長による評価面談の機会を通して、職員が設定した目標とその達成状況を振り返ることで、双方向の人事評価が機能し、成果の承認や課題の認識によって職員自身の成長を促した。
- ・職員満足度調査を継続し、職員ニーズの変化の把握に努めた。

(2) 働き方改革の推進・・・**4**

- ・労働および労働以外の時間区分のモニタリングシステムを活用し、管理者が適宜指示調整を行い、変則労働時間の設定やシフト勤務を活用しながら時間外勤務の削除等の取組みを進めた。

3. 財務内容の改善に関する事項

1 経営機能の強化・・・**5**

- ・人口推計や DPC データを用いた将来受療予測を行い、働き方改革を踏まえた人員配置計画や地域連携活動に活用した。
- ・病院経営に影響する様々な指標を院内開発の BI システムによってタイムリーにモニタリングし、経営課題を的確に把握することで、迅速な対応を実現している。

2 収益の確保及び費用の最適化・・・**4**

- ・診療報酬の査定減点の詳細な分析を行い、委員会で検討した。内容は各診療科にフィードバックし、要注意項目に対して医師と事務が協力して対策を行った。
- ・BI システムによる各種経営指標モニタリングを病院全体に共有し、諸課題に対して迅速に対応した。
- ・コスト削減プロジェクトを立ち上げ、診療材料の見直しや運用方法の見直し、節電への取り組み、廃棄物の分別の徹底し、コピーの使用方法の見直しなど病院全体でコスト削減を意識した取り組みを進めた。

4. その他業務運営に関する重要事項

1 地域社会への貢献

(1) 地域社会との協働の推進・・・**3**

- ・地域住民に向けた健康講座をオンライン開催から現地での開催を再開し、健康促進や病院と地域とのコミュニケーションの場を提供した。
- ・加古川市のツーデーマーチへ看護師の派遣を行うなど、様々なイベントへの参加を行った。

(2) 市施策への協力・・・**3**

- ・加古川市養護学校の修学旅行へ小児科医師、看護師が同行した。

年度計画で定めた指標の目標達成状況

指 標	目標値	実績値	達成率
救急車受入件数	8,200	8,762	106.9%
救急車受入要請に対する不応率	10.0	16.2	93.1%
人間ドック受診者数	2,800	2,827	101.0%
紹介率	70.0	78.3	111.9%
逆紹介率	95.0	109.7	115.5%
がん登録件数	2,500	2,250	90.0%
悪性腫瘍手術件数	1,700	1,493	87.8%
放射線治療計画件数	420	393	93.6%
化学療法件数	14,000	14,038	100.3%
緩和ケアチーム介入件数	260	179	68.8%
冠動脈インターベンション件数	540	457	84.6%
アブレーション件数	310	331	106.8%
デバイス治療件数	220	219	99.5%
末梢血管インターベンション件数	180	95	52.8%
開心術・心血管手術件数	250	323	129.2%
心臓リハビリテーション単位数	30,000	29,560	98.5%
上部内視鏡検査件数	8,850	8,918	100.8%
下部内視鏡検査件数	4,300	4,151	96.5%
内視鏡的粘膜切除術 (EMR) 件数	680	570	83.8%
内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) 件数	160	130	81.3%
分娩件数	750	657	87.6%
ハイリスク分娩件数	150	134	89.3%
小児救急搬送受入件数	1,800	2,279	126.6%
手術件数	8,600	8,795	102.3%
MR I 件数	23,250	23,747	102.1%
C T 件数	56,300	68,852	122.3%
P E T－C T 件数	2,220	2,138	96.3%
クリニカルパス使用率	65.0	68.4	105.2%
医師数 (専門医研修医及び初期臨床研修医を除く。)	182	182	100.0%
専門医研修医数 (専攻医)	62	62	100.0%
初期臨床研修医数	29	29	100.0%
患者満足度/入院	95.0	94.5	99.5%
患者満足度/外来	85.0	86.6	101.9%
職員満足度 (%)	70.0	74.3	106.1%
累積経常利益 (百万円)	15,507	16,326	105.3%
経常収支比率	100.6	102.5	101.9%
医業収支比率	100.0	102.4	102.4%
医業収益 (百万円)	26,951	27,115	100.6%
入院収益 (百万円)	17,936	17,929	100.0%
外来収益 (百万円)	8,452	8,702	103.0%
入院診療単価 (円)	91,000	93,587	102.8%
外来診療単価 (円)	23,500	24,566	104.5%
1 日あたり入院患者数	540	523	96.9%
1 日あたり外来患者数	1,480	1,458	98.5%
病床稼働率	90.0	87.2	96.9%
給与費比率/対医業収益	48.4	45.7	105.9%
診療材料費比率	15.8	16.7	94.6%
医薬品費比率	15.0	15.9	94.3%
経費比率/対医業収益	14.1	13.4	105.2%